総合的な学習の時間	第３学年	大竹市立大竹小学校	

単元名

「ぼくたち，わたしたちの大竹大発見」
～大竹のおいしいものを調べよう～

課題発見・解決能力，主体性

1　日　時　　令和 5 年 10 月 27 日（金）1 校時

2　学　級　　第 3 学年 4 組（男子 16 名，女子 13 名　計 29 名）

3　単元設定の理由

（1）単元観

生活科において「町たんけん」を経験した 3 年生にとって，自分を取り巻く地域社会の範囲は校区から校区外へ，町から市へと広がっていく。これは，社会科の学習内容とも関連している。

本校の総合的な学習の時間における本質的な問い「大竹のまちに愛着をもち，大竹のまちに誇りがもてるにはどうしたらよいか。」の入り口として，大竹のまちを知ることから始めることは必然である。そこで，探究課題を「地域」とし，単元「ぼくたち，わたしたちの大竹大発見」を設定した。大竹の有名なもの（場所・もの・食べ物・行事など）を調べる活動を通して，課題発見・解決能力を養うことができると考える。

2 学期は特に身近で児童の関心が高かった「食べ物」について取り上げる。大竹市では多くの農作物や水産物を生産しており，それに携わる人も多く，地域の人材をゲストティーチャーとして招いて学習を深める機会にも恵まれていることから，学習が深まっていくと考えられる。そして学んだことを地域や学校に還元するというゴールを設定することでＰＢＬ（※）の視点をもった授業を展開することができる。

※ＰＢＬ（プロジェクト型学習）…ひとつの解が存在しない発展性のあるプロジェクトを扱う学習。

（2）児童観

本学級の児童は，1 学期の総合的な学習の時間で，大竹の有名なもの（食べ物，行事，もの，場所）について調べ学習を行っており，大竹市にはいろいろな有名なものがあることに気付いている。また，事前のアンケートでは次のようになった。

児童の実態に関する事前アンケート（3 年 4 組　26 人中）

	はい（%）	いいえ（%）
①大竹市の名産を知っている。	81	19
②大竹市の名産を作っている人を知っている。	4	96
③名産はどのような思いで作られているか知っている。	38	62
④調べ学習で困ったことがある。	92	8

上記のように，「大竹市の名産を知っている。」と答えた児童は 8 割を超えた。これは，1 学期に作物に関して学習した児童の学びが，多くの児童に伝わった結果であると考えられる。また，「大竹市の名産を作っている人を知っているか。」の質問にはほとんどの児童が「いいえ」と回答しており，「どのような思い

で作られているか知っているか。」には半数以上が「いいえ」と回答している。③の質問に関しては，社会科の学習での生産者の思いを挙げる児童がほとんどであった。このことから，大竹の有名な食材に関しての知識はあるが，携わる人々の思いや苦労などは知らない，または教科書上の知識に留まっており，自分たちの地域の食材と関連付けられていないことが考えられる。④の質問に関しては，図書資料やタブレットでの調べ学習では，自分の知りたい情報や，詳しい内容についての情報収集が十分ではないと感じている児童が多く，インタビューやゲストティーチャーによる話を聞く機会を望む声が多く挙げられた。このことから，調べ学習の方法について課題があると考えられる。

（３）指導観

本単元では，2 学期には「大竹のおいしいものを調べよう」という単元目標を設定し，1 学期に学習した内容を振り返りながら，大竹市の食材の良さに気付いた上で，その良さを広めようとする児童を育成するために，次の点に留意する。

①ＰＢＬの考えを用いた課題発見・解決学習

「大竹の食べ物の良さを伝えるためにはどうしたらよいだろうか。」という課題を設定し，児童の興味や関心をもとに，進んで調べ学習を行い，解決に向けて取り組むようにする。その際に，児童観での課題を踏まえ，ゲストティーチャーから話を聞いたり，インタビューをしたりすることで，実際の生産者の思いを聞く機会を多く設け，　地域との繋がりを意識させたい。そして，生産者の思いをもとに，「もっと大竹の良さを広めるためにはどうすれば良いか」という課題意識をもたせ，生産者や学校給食への還元をプロジェクトとして探究のサイクルを回していきたい。

②思考ツールの活用

児童が考えたことを可視化し，整理したり，考えを深めたりするために場面に応じた思考ツールを活用する。情報収集の場面では，学んだ食材と，その食材にまつわる大竹に関するひみつや魅力を，ステップチャートの考えを活用したワークシートに書きためていく。書きためた食材を種類ごとに分類する際にはＹチャート，自分の選んだ食材の良さを書き出す際には熊手チャート等，場面に応じて様々な思考ツールが活用できることを経験させたい。

③リフレクションの活用

学習の振り返りだけでなく，反省やめあての達成度を記述し，視覚化することで学習状況をメタ認知し，次の学習に繋げていくようにする。また，学習を重ねる中で，考えの変容や深まりを児童自らが実感し，学習の成果を捉えられるよう学習の足跡としての活用も行う。また，助言や問いかけをコメントとして残すことで意欲や思考の深まりに繋がるようにしたい。

④ルーブリック評価の活用

評価についてはルーブリックを作成し，自分の考えと友だちの考え，生産者の思いを参考にしながら，学習した内容を課題解決に向けてどのように活用しようとしているかを見取っていく。また，毎時間の授業の導入時には評価基準を児童に提示することで，目指す姿や学習の視点を明確にさせ，振り返りでは，ルーブリックの基準をもとにリフレクションを行う。

⑤ファシリテーション

指導においては，教師がファシリテーターとしての役割を果たすことを意識したい。単元を通しての探究の過程を学習の足跡として掲示したり，協働的な活動の重要性を意識させるために，意図的なグループ分けをしたりする。そうすることで，児童の多様な意見を引き出し，拾い，繋げるという児童主体での学習を展開することができると考える。

4　単元の目標

大竹で食材を生産する人と関わったり，その良さを発信したりする活動を通して，大竹で作られている食材と，それに携わる人たちの思いや工夫を理解し，より多くの人に大竹の良さを知ってもらう方法について考え，発信するとともに，自分たちの地域への誇りや愛着をもつことができるようにする。

5　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　大竹で作られている食べ物の良さや，それらに関わる人の思いについて理解している。 ②　インタビューやインターネット，図書資料等による調査を，目的に応じて実施している。 ③　大竹で作られている食べ物の良さと，それらに関わる人々の思いについての理解は，大竹で作られている食べ物について，探究的に学習してきた成果であると気付いている。	①　大竹で作られている食べ物の良さを伝えるために，学習課題を設定している。 ②　目的に応じて，必要な情報を収集している。 ③　収集した複数の情報や，自分と他者の意見を比較したり，関連付けたりしながら考えている。 ④　大竹で作られている食べ物の良さを伝えるために，制作物にまとめている。	①　大竹で作られている食べ物に関心をもち，探究的な活動に取り組もうとしている。 ②　専門家の話等を生かしながら，自分と異なる友だちの考えを知り，協働的に探究活動に取り組もうとしている。 ③　大竹で作られている食べ物の良さを伝える学習を通して，地域に対する誇りや愛着をもとうとしている。

6　単元のルーブリック

知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
①	A	大竹で作られている食べ物の良さや，それらに関わる人の思いについて，自分の生活と関連付けて理解している。	①	A	大竹の良さを伝えるために，根拠をもって学習課題を設定している。	①	A	大竹で作られている食べ物に関心をもち，自分の意志を明確にもって探究的な活動に取り組もうとしている。
	B	大竹で作られている食べ物の良さや，それらに関わる人の思いについて理解している。		B	大竹の良さを伝えるために，学習課題を設定している。		B	大竹で作られている食べ物に関心をもち，探究的な活動に取り組もうとしている。
②	A	インタビューやインターネット，図書資料等による調査を，目的に応じて適切に実施している。	②	A	大竹の良さを伝えるという活動への見通しをもって必要な情報を収集している。	②	A	栄養教諭の話を生かしながら，自分と異なる友だちの考えを取り入れて，協働的に探究活動に取り組もうとしている。
	B	インタビューやインターネット，図書資料等による調査を，目的に応じて実施している。		B	大竹の良さを伝えるために，必要な情報を収集している。		B	栄養教諭の話を生かしながら，協働的に探究活動に取り組もうとしている。

③	A	大竹で作られている食べ物の良さと，それらに関わる人々の思いについての理解は，大竹のステキについて，探究的に学習してきた成果であると気付き，今後も大切にしていきたいという思いをもっている。	**③**	**A**	大竹で作られている食べ物とそれに関わる人について分かったことを整理し，友だちの考えを取り入れながら自分の考えを深めている。 **友だちと交流して，複数の視点をもっておすすめポイントを更新することができる。（本時）**	③	A	大竹で作られている食べ物の学習を通して，地域に対する誇りや愛着をもち，これからも地域との関わりを深めていこうとしている。
	B	大竹で作られている食べ物の良さと，それらに関わる人々の思いについての理解は，大竹のステキについて，探究的に学習してきた成果であると気付いている。		**B**	大竹で作られている食べ物とそれに関わる人について分かったことを整理し，自分の考えをもっている。 **友だちと交流しておすすめポイントを更新することができる。（本時）**		B	大竹で作られている食べ物の学習を通して，地域に対する誇りや愛着をもとうとしている。
			④	A	大竹の食材の良さを伝えるために，相手意識をもって成果物を作成し，効果的な発信方法を見通している。 大竹の食材の良さを伝えるために，相手意識をもって成果物を作成している。			
				B	大竹の食材の良さを伝えるために，成果物を作成している。 大竹産の食材を使ったメニューを栄養教諭に伝える方法を考えて準備し，提案している。			

7　単元の全体計画（全 29 時間）

次	学習内容	評価			
		知・技	思判表	主体的	評価方法
1	＜課題の設定①＞ ○大竹で作られている食べ物について，知っていることを話し合い，これからの活動テーマについて考える。（1）		①		発言 ワークシート
2	＜情報の収集①＞ ○タブレットや副読本等を用いて，大竹で作られている食べ物について調べる。（2）		②		ワークシート
3	＜情報の収集②＞ゲストティーチャー ○栄養教諭から，大竹の食について話を聞き，大竹で作られている食材や料理について知識を深める。（1）	①			リフレクションシート
4	＜情報の収集③＞ゲストティーチャー ○ゲストティーチャーから，大竹の食材についての話や関わる人々の思いを聞き，大竹で作られている食べ物について，知識をさらに深める。（5）	①			ワークシート リフレクションシート
5	＜整理・分析①＞ ○これまでの学習で得た知識や，食材に関わる人たちの思いなどを整理し，特に自分がおすすめしたい食材を選ぶ。（2）		③		リフレクションシート
6	＜まとめ・表現①＞ ○大竹の食材の良さを伝えるために，より効果的に伝えることができる方法を考えながら成果物を作る。（2）		④		成果物
7	＜課題の設定②＞ ○これまで調べてきたことをもとに，これからの活動テーマを考える。（1）		①		発言 ワークシート
8	＜情報の収集④＞ゲストティーチャー ○栄養教諭の話や図書資料等から，給食メニューの作り方について情報を集める。（2）	②			リフレクションシート
9	＜情報収集⑤＞ ○大竹で作られている食材を使って，どのようなメニューができるか調べる。（1）			①	ワークシート リフレクションシート
10	**＜整理・分析②＞ ○大竹市で作られている食材の良さを伝えるための給食メニューを考える。（2）（2／2）（本時）**		**③**		**行動観察 ワークシート リフレクションシート**

	○グループの給食メニューについて話し合い，大竹の良さが伝わる食材やメニュー名を考える。（２）		③		行動観察 ワークシート リフレクションシート
11	＜まとめ・表現②＞ ○話し合ったことをもとに，メニューのアイデアシートを作り，交流する。（２） ○プレゼンテーションに向けて練習する。（１）		④		ワークシート
12	＜まとめ・表現③＞ゲストティーチャー ○栄養教諭に提案する。（１）		④		発表 ワークシート
13	＜まとめ・表現④＞ ○反省点をもとに，メニューを改良する。（２）			②	発言 ワークシート
14	＜まとめ・表現⑤＞ ○給食メニューを栄養教諭に再提案する。（１）			③	発言 ワークシート リフレクションシート
15	＜振り返り＞ ○活動を通して，大竹の良さやステキなところが見つけられたか振り返る。（１）	③			リフレクションシート

８　単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

資質・能力	目指す児童像
課題発見・解決能力	生産者の話を聞いたり，社会科で学んだことを取り入れたりしながら，大竹市の食材の良さについて考え，それを広めるために成果物として表現することができる。
主体性	地域の食に関わる人とのつながりを通して，大竹で作られている食べ物の良さと，それらに関わる人々の思いを知り，大竹の食材の良さを伝えるために，主体的に活動することができる。

９　本時の展開

（１）　本時の目標

友だちと交流して，メニューのおすすめポイントをより良くすることができる。

（２）　準備物

ワークシート，掲示物，教師用タブレット，モニター

（3） 展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項	【観点】評価規準（方法）
	Ｔ：主な発問・指示 Ｃ：予想される児童の反応	○指導上の留意事項 ▲支援を要する児童への手立て	
見通しをもつ	１．前時の学習を振り返り，本時の見通しをもつ。 Ｔ：今日は何を学習しますか。 Ｃ：前回考えが書けなかったので，友だちの意見を聞きたいです。 Ｃ：前回考えたメニューを発表したいです。 ２．本時のめあてを確認する。	○前時のリフレクションシートを紹介し，本時の学習の見通しをもてるようにする。	
	㊍　友だちと交流して，メニューのおすすめポイントをレベルアップすることができる。		
		○前時までに書けていない児童は本時で書くことができる，すでに書けている児童は，友だちの考えを踏まえて再考するなど，個に応じたレベルアップの基準を設定し，見通しをもたせるようにする。	
考えを交流する	３．メニューやおすすめポイントを班で交流する。 Ｃ:米を使ったカレーがいいと思います。カレーだと皆がおいしく食べられるからです。 Ｃ:皆が食べられるのはいいと思います。	○交流の注意点を確認する。 ・友だちの考えの良いところに気付き，自分の考えに付け加える。 ▲本時までにワークシートを確認し，自信をもって発表できるようにする。	
	４．全体で交流する。 Ｔ:皆の発表に共通点はありますか。 Ｃ：おいしく食べられます。 Ｃ：農家さんの思いが入っています。	○発表を聞いて，感想や意見を児童に繋げさせることで思考を深まるようにする。 ○児童が共通点に気付けるよう，構造的に板書する。	

自分の考えをもつ	5．交流したことを踏まえて，おすすめポイントを再考する。 ルーブリック（思・判・表③） 児童との評価の共有 A：（＋）いろいろな視点から B：レベルアップ	○考えの変容が分かるように，前時までの考えと比較できるワークシートに記述する。 ○ルーブリックを共有し，レベルアップの内容について全体でおさえる。	
	T：今日の学習や，これまでの学習を振り返って，おすすめポイントを書いてみましょう。 C：生産者の工夫を思い出したので書き加えます。 C：生産者の思いはもう書いてあるので，違う視点も書きます。	○考えの変容を全体に共有するために，児童のワークシートをモニターで提示する。 ○これまでの学習資料も活用するよう伝えることで，思考を深められるようにする。	評価【思・判・表③】 収集した複数の情報や，自分と他者の意見を比較したり，関連付けたりしながら考えている。 評価【思・判・表③】 A：友だちと交流して，複数の視点をもっておすすめポイントを更新することができる。 B：友だちと交流して，おすすめポイントを更新することができる。 （ワークシート）
振り返る	6．振り返りをする。 C：友だちのメニューやおすすめポイントを聞いて自分が思いつかなかった考えを知りました。	○振り返りの視点を共有できるようにする。 ・友だちの意見を聞いて，考えがどう広がったか。	

（4）板書計画

ぼくたち，わたしたちの大竹大発見
【大竹のおいしい食べ物を調べよう】

㊙ 友だちと交流して，メニューのおすすめポイントをレベルアップすることができる。

A：（＋）いろいろなし点から
B：レベルアップ

探究の過程

視点①　視点②　視点③　視点④